

令和七年度岡山大学入学式及び大学院入学式 式辞

(祝辞に先立ち) まずこの度の3月28日ミャンマーで発生した地震において、首都ネピドーや第二の都市マンダレーなどで甚大な被害が出ており、被害の全容も明らかになりつつあります。本学には、2024年11月時点で、39人のミャンマー人学生が在籍しており、ミャンマー国内には本学の同窓会組織の支部もあります。ミャンマー在住の卒業生を含む本学関係者ならびにご家族等の安否を確認するとともに、被害に遭われた皆様のご回復と被災地の一日も早い復興を願っております。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。岡山大学の教職員、在校生、卒業生など、本学に関わるすべての人たちを代表して心からお祝いを申し上げます。

本日ここに、学部学生 2,377 名、大学院学生 1,110 名、総計 3,487 名の新入生、そして 17 か国から 159 名の留学生が、岡山大学に入学を許可されました。

新入生の皆さんは、この数年間、ウイズコロナの中で過ごしてこら

れました。日々の生活に加え、授業やクラブ活動・社会活動、そして勉強などにおいて、様々な制限を受け続けて来られたことと思います。皆さんは、この不自由な時期を本当によく耐えたとともに、困難を乗り越える知恵と行動の結果として、今日という素晴らしい日を迎えられました。皆さんのこれまでのご苦勞、心身の強さに敬意を表するとともに、皆さんを支えてこられたご家族などの関係者の皆様とともに、本日の入学式を挙行できることを大変喜ばしく思います。

新入生の皆さんが今日から学ばれる岡山大学は、今から 155 年前の 1870 年（明治 3 年）に創設された岡山藩医学館を起源とする岡山医科大学、1900 年（明治 33 年）の旧制第六高等学校、1914 年（大正 3 年）の大原奨農会農業研究所など、岡山の地にあった伝統と優れた教育研究実績を誇った高等教育機関を統合して、1949 年（昭和 24 年）、新制国立大学として設立され、今年で創設 76 年を迎えます。本日来賓でお越しただいております、小長啓一様は新制国立大学の第一期生で本学全学同窓会の会長であります。

岡山大学は、全国有数の緑豊かな広大なキャンパスを有しデザイン性の優れた美しい建物や、憩いを生み出す交流広場を配し、学生の皆さんや教職員のみならず地域や世界の人々も集い、学び合える素

晴らしい環境が用意されています。

このたび新入生の皆さんにとって新たな生活がスタートしました。私は、ちょうど50年前の1975年（昭和50年）に岡山大学に入学しました。入学式当日の風景、音、匂い、そして、その中にいる期待と不安を抱きながら家族と一緒に入学式に参加した自分の心情、これらの感覚を昨日（きのう）のここのように鮮明に覚えています。いま振り返れば本当にあっという間の50年間でありましたが、在学中に得たよき友、よき師との様々な交わりは私自身の人間としての成長や仕事のキャリアなどに大きな影響を与えた何のものにも代えがたいものであり、いまでは岡山大学で学ぶことができたことを人生の誇りに思っています。新入生の皆さんにも同じような思いをしていただきたいと心から願っております。これこそが「岡大愛（岡大 LOVE）」です。新入生の皆さんにも今後「岡大愛（岡大 LOVE）」を醸成していただきたいと心から願っております。「岡大愛（岡大 LOVE）」は今日のキーワードの一つです。

このような経験と思いをもとに、私は一昨年、学長就任に際し、「不易流行の大学経営」を提唱いたしました。「不易流行」は今日のもう一つのキーワードです。ぜひ入学式の記憶として留めておいて下さい。

「不易流行」は松尾芭蕉の俳諧の理念であり、時代が変わろうとも不変なもの・変えてはいけないものを「不易」と言います。また、時代の変化、社会の要求や期待に応える形で変化させていかねばならぬものを「流行」と言います。皆さん自身にとっての「不易流行」とは何かなぜひ考えてみてください。これからも私は折に触れて皆さんにこの不易流行を問いかけていきたいと思えます。一緒に自分事（ごと）として考えていきましょう。

私は大学経営における不易流行の「不易」は、岡山大学に関わる人々、そしてこれから関わる人々（マルチステークホルダー）の持続的で多様な幸せ（Well-being）の実現を追求することと定義しました。そして不易流行の「流行」は、国内外の社会情勢を見極め、国の施策や地域の思いを先取りし、形として先導する組織経営改革・人材育成・研究開発などを行うことと定義しました。

私が学長として経営の根幹に据えている「不易」の部分において、皆さんは最も大切なステークホルダーであり、岡山大学が一体となり「誇りと希望」そして「岡大愛（岡大 LOVE）」を醸成する中心的な存在です。

私が皆さんに「不易」として求めたい、そしてヒトとして生きてい

く根幹的な姿勢は、自分自身のことのみならず、家族、友人、地域社会、そして地球のあるべき姿や課題について想像力豊かに思いを巡らせ、いわゆる「利他の心」をもって自分自身ができることを主体的に考え、新たな価値を創り出していこうとする姿勢、行動です。言い換えれば皆さん一人一人が主役（主体）、ヒーローそして英雄なのです。そして、そのような姿勢、行動を持つ人物になるよう、私をはじめ教職員は、皆さんの在学中そして卒業後も努力を惜しみません。

今回の新型コロナウイルス感染症の世界的流行は皆さん一人一人の生活のみならず人類社会に大きな影響を及ぼし、不確実性に満ち溢れ予測不可能な未来を自分事（ごと）として改めて考え直す機会となりました。地球温暖化に対する脱炭素社会の実現、デジタルの力により誰一人取り残されない社会の実現も間近に迫った他人事（ごと）ではない課題です。これはまさに不易流行の「流行」の部分です。

私が岡山大学に入学してから過ごした約50年間を振り返ると社会は色々な意味で大きく変化しました。新入生の皆さんがこれから過ごすであろう50年間はどのような50年間でしょうか？今回のコロナ禍を通じて皆さんもよくお分かりのように、今後の日本・世界そして地球は、ますます予測が困難な変動の時代になると言われています。目

まぐるしく変化する地球規模の課題に対して、私たちはその都度柔軟に適応していかなければなりません。我々の岡山大学も変わっていかないと生き残っていきません。これは、「不易流行」の「流行」の部分です。しかし、現代社会の課題の多くは、極めて複雑に絡み合っており、目の前の変化だけにとらわれていては、課題の本質に近づき、解決の適切な糸口を掴むことは難しくなります。「不易流行」の「不易」を見定める必要があります。そのような時に求められることは、「未来のあるべき姿」を思い浮かべ、そこに近づくために、いま何が必要かを自分事（ごと）として深く考え、自ら行動することです。誰かが考えて、誰かがしてくれるわけでは決してありません。皆さん自身の未来です。新入生の皆さん、今日から我々と一緒に学び、考え、そして主体的に行動してみませんか！そのような仕組みを私たちはたくさん用意しています。いま、岡山大学は未来のあるべき姿を見据えて「岡山大学長期ビジョン2050：地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」を新たに掲げて様々な改革を行っています。それは、これから皆さんが岡山大学を巣立って、社会の中心となって活躍いただくようになるためです。私たちには皆さんの将来に責任があります。

そして、今日は皆さんへもう一つのメッセージがあります。それは私の『パワーミュージック』についてです。

突然ですが皆さんはミュージシャンの AI (アイ) さんを知っていますか？知っている人は手を上げてみてください。「ハピネス」、「Story」、そして NHK の連続テレビ小説「カムカムエヴリバディ」の主題歌「アルデバラン」で有名です。最近では「ドラゴンボールダイマ」のエンディングテーマ「NAKAMA」を歌っています。私は、AI (アイ) さんのオフィシャルファンクラブのメンバーであり、今年7月に倉敷で開催されるデビュー25周年記念公演を観に行く予定です。

AI (アイ) さんと岡山大学とはつながりがあります。岡山大学は世界190か国以上から各国を代表する次世代の若いリーダーたちが一堂に会する世界最大級のサミットである、One Young World の公式パートナーとして毎年参加していますが、One Young World Japan のオフィシャルアーティストである AI (アイ) さんと私は昨年10月 SDGs に関する対談を行いました。その際、私は「みんながみんな英雄2024」という曲を知りました。それ以降この曲は私を元気付ける「パワーミュージック」として毎日聞いています。その歌詞を紹介

介したいと思います。

やるかやめるか 右か左か

選択問題むずかしい

でも正解かどうか考えず

自分で正解に変えればいい

皆さんは今日、この日を迎えるまでを振り返ると様々な決断や選択をされてきたと思います。

岡山大学への受験・入学も大きな選択であったことと思います。今日これからも、今まで以上に多くの決断や選択をされることと思います。自分の選択（それはもしかしたらやむを得ず行った選択かもしれませんが）、それが正解だったかどうかは、いつ、だれが、そしてどのような基準で判断するのでしょうか？考えてみてください。

私はちょうど 50 年前の 1975 年に第一志望校をあきらめ第二志望校であった大学に進学をしました。それは家族や高等学校の先生の強い勧めに従っての選択でした。しかし、そのとき反対を押し切って同じ第一志望校を受けた同級生が合格したことにショックを受け、ずっ

とそのことが私のわだかまりとして心の片隅に残っていました。社会人になっても、予定されていた留学が急に取り止めになったり、ほぼ決まりかけていた他大学への栄転がダメになったりしたときには、心の片隅に小さくなっていたはずのこのわだかまりの炎の勢いが増すことがありました。しかし昨年、AI（アイ）さんのこの歌のこのフレーズを聞いたときには、私は 50 年前にこの歌に出会っていれば、結果は同じでもまた違う気持ちでこの 50 年間で過ごすことができたのではないかと強く感じました。正解だったかどうかは他人が他人の評価基準で決めるものではなく、自分の努力を通して自分の心が決めるもの・感じるものです。

では具体的に自分で正解に導くためにはどうしたらいいのでしょうか？ 次にそのヒントとしてこんなフレーズがあり歌の中に二回も出てきます。

踏み出せば それが道

飛び出せば そこが夢

汗かけば きっと 輝くさ

なりたかった自分が待っている

『決まった道が進むべき道』、あれこれ考えずにとにかく一步踏み出す、行動を起こすこと。そうすると徐々に進むべき道が見えてきます。止まっていたのは心の目が曇って見えません。つぎにその道を汗を流しながらそして難しい選択問題を解きながら進むと、天職と思えるもの、自分が本当にやりたいことや夢が見えてきます。そしてまた汗をかきます。この連続により人は成長するのではないのでしょうか。私は2年前に学長になるという選択をしました。そのことが皆さんをはじめとするステークホルダーの方々にとって正解であったと自分でも納得できるようしっかり汗をかきます。

次に、本日ご臨席くださったご家族ならびに関係者の皆様にお礼とお願いを申し上げたいと思います。このたびは、皆様の大切なご家族の進学先として、私たち岡山大学を選んでくださり誠にありがとうございました。皆様も私たちにとっては大変重要なステークホルダーであります。私たち教職員一同、新入生の皆さんが、日本だけでなく世界でも活躍できる教養豊かな人間として成長できるように、全力で支援をして参りたいと思います。そして新入生の皆さん一人一人が『岡山大学で学んでよかった、正解だった』、ご家族の皆さん一人一人が『家族を岡山大学で学ばせて良かった、正解だった』とさせていただ

けるよう、皆さんと一緒に汗をかいてまいります。

ご家族の皆様におかれましては、岡山大学が、今後も引き続き充実した学びの場となるよう、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新入生の皆さん、今日から岡山大学の学生として、「希望」に溢れた新しい一日が始まります。どうか自分を信じ、主体性をもって、とにかく一步を踏み出してください。将来への大きな夢と希望に向かってワクワク・ドキドキした大学生活を送ってください。皆さんが主役・ヒーローそして英雄です。私たちは、皆さんとともに一緒に築いていくこれからの未来が、これまでの本学の歴史や伝統を超えるものとなり、皆さんにより更なる「誇りと希望」をもたらすことを心から期待しています。皆さん、一緒に汗をかきましょう！！

「みんながみんな英雄 2024」、私のメッセージを思い出しながら、今日この後（あと）一人でまたは友人やご家族と一緒に聞いてみてください。是非、お願いいたします。

本日は誠にありがとうございました。

令和7年4月2日

国立大学法人 岡山大学長 那須 保友